

定額乗合交通「きらり号」の利用状況と今後の取り組み

＜利用状況＞ 実証実験開始から1か月の状況（10月1日～10月31日）

- 利用登録者数 12名（気高10名、鹿野2名）・・・目標登録者数100名
- 利用回数 68回
- 多くは買い物先への移動で、通院やレジャーのための利用は少ない。
- 利用者からは大変好評。

＜運行事業者（サービスタクシー）の今後の取り組み＞

- 毎月広報誌を全戸配布し、親しみを持ってもらう。
- 無料利用券を配布し体験してもらう。
- 世帯で利用する場合、二人目以降は減額するよう運賃を改定する。
- 運行エリアの拡大を運輸局に申請する。（鹿野地区、大字八束水）
- 商業施設に、利用者に対しての割引優遇サービス等を交渉する。
- 実施は来年1月からの予定。（広報誌は11月から）

＜総合支所の取り組み＞

高齢者が増え、運転免許返納者も増加している反面、中山間地域の公共交通は弱体化が進み、高齢者がいつまでも安心して暮らすことが困難になりつつある。

このような中、新たに民間タクシー会社の参入により、時間やエリアの制限はあっても家の前から目的地まで出かけることができる「定額乗合交通」の実証実験が始まった。

このチャンスを逃がさず、乗合タクシーが定着するよう生活交通協議会で検討しながら、運行事業者と協力して引き続き登録者増加に努める。